

分類 番号	A1	取組 名称	地域文化財を活用した山間地区コミュニティの維持方策の研究
研究代表者所属・職名：		文学部・准教授	氏名： 上杉 和央
研究担当者： 京都府立大学（鈴木暁子、東昇、川瀬貴也） 外部分担者・協力者（中村治氏、岸根郁郎氏（ほか）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府京都市左京区・北区雲ヶ畑地区、修学院学区郷土史研究会など			
【研究活動の要約】			
<p>京都市北部の山間地区における祭礼などの文化財の維持をコミュニティの維持と結びつけながらおこなうための方策について、①京都市北部でのヒアリング調査、②祭礼や史料などの現地調査、③全国の先進事例の調査、の3つを軸に検討を進めました。</p> <p>また雲ヶ畑地区では調査成果の報告会を実施して、地区住民の方に地域文化財の価値をお伝えしました。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>上記①・②の調査では、地域文化財や歴史文化が地域コミュニティの紐帯としての役割を果たしていることが明らかとなりました。一方で、祭礼に携わる人の不足や材料調達の困難さなどが深刻であり、地域文化財の維持と地域コミュニティの維持ないし地域づくりの推進は一体として検討せねばならない課題であることが、改めて浮かび上がりました。</p> <p>③については、歴史や文化を活かした地域づくりを実践している他地域の先行事例として、長崎県五島市、長崎県平戸市、山口県萩市に調査に行きました。古民家を改修してガイドンス施設としつつ、地域住民の方の集まりの場として機能させる事例や、まちじゅう博物館構想によって地域文化財をコミュニティに結び付けていく事例などを収集しましたが、京都市北部のみならず、京都府内にも応用可能なヒントをたくさん得ることができました。</p> <p>2年目以降、1年目で得られた内容をより深めていく予定です。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>2019年11月24日（日） 雲ヶ畑小学校・雲ヶ畑中学校 ※関係者等約35名「ACTR 成果報告会「地域の資料と雲ヶ畑の歴史」」</p> <p>東昇編『京都雲ヶ畑・波多野家文書調査報告（京都府立大学文化遺産叢書第19集）』2020年3月（府大図書館で閲覧可）</p>			
【お問い合わせ先】			
<p>文学部 歴史学科 准教授 上杉 和央 Tel: 075-703-5117 E-mail: kuesugi@kpu.ac.jp</p>			

参考（イメージ図、活動写真等）



2019年8月15日、北部山間地域に残る送り盆の様子を調査しに行きました。



2019年8月24日は久多の花笠踊の調査（左）、10月22日は鞍馬の火祭の調査（右）を実施しました。花笠踊では、学生1名が持ち手に参加させていただきました。



（左）2019年11月24日、雲ヶ畑でACTR成果報告会を開催しました。

（右）2020年3月に平戸市・萩市の事例を調査しました。写真は平戸市春日の「かたりな」です。